

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 名張高等学校 定時制 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自立」「協調」「創造」を校訓とし、地域に信頼され、社会に貢献する人材を輩出できる学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶や身だしなみなど基本的な生活習慣が身につけている生徒。</li> <li>○ 社会で必要とされる基礎的な学力があり、自ら考え判断し、主体的に行動できる生徒。</li> <li>○ 豊かな心を持ち、人権と生命尊重の意識、規範意識や社会的マナーを備えた生徒。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業を通して、生徒の人間性、専門性を向上させるとともに、情報共有と意思疎通を図りながら、一人ひとりの生徒に寄り添い、粘り強く支援・指導を続けられる教職員集団。</li> <li>○ 研修や授業改善、業務の効率化などに前向きに取り組み、あらゆる場面において常に改善の意識をもつ教職員集団。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		生徒：学校生活の充実（授業内容・学校行事・施設設備） 進路保障（情報提供） 保護者：基礎学力の定着、進路保障・卒業、社会規範の向上 進路先：基礎学力、一般教養、協調性、誠実さ、辛抱強さ	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	保護者：進路保障・卒業、社会規範・基礎学力の定着 地域：地域に貢献できる人材の育成 公的機関：多様な生徒の積極的な受け入れ		保護者：基本的な生活習慣の確立、生徒への愛情と関心、相互連絡と協力 地域：地域の活力の利用 公的機関：情報の共有、教育的支援及び連携
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済的事業や家庭環境に課題のある生徒も多いが、安心して学べ、基礎学力を身につけることができる教育環境が実現している。</li> <li>○ 様々な事情により就学困難な生徒等の「学びのセーフティーネット」として、今後も生徒の進路実現と経済的自立を支援し、定時制の社会的役割を果たされたい。</li> <li>○ 地域や企業等の認知度を高めるため、情報発信のあり方に工夫を講じられたい。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な生徒が在籍し、目的意識や学習意欲、学力において大きな差があり個々に対応しきれない場面もあることから、個々の生徒の能力、興味・関心に応じた教育課程の編成と学習環境づくりに取り組む必要がある。</li> <li>○ 生徒が、自己の適性や能力にあった主体的な進路選択ができるようキャリア教育を見直していく。</li> <li>○ 義務教育段階の学び直しの時間を確保しつつ、基礎学力を向上させるためのさらなる授業改善に取り組む必要がある。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶の徹底を図り、基本的な生活習慣の確立を目指し、教職員と生徒及び生徒間の望ましい人間関係をつくり人権意識の向上を目指すにあたり、教職員の協働体制をより一層高める必要がある。</li> <li>○ 各教職員のそれぞれの取り組みや生徒情報が、的確に伝わるような情報共有の仕組みを作っていく必要がある。</li> <li>○ 生徒一人ひとりが集団の中でのマナーや人権意識を身に付けるとともに、学校内で自分が安心できる居場所を確保できるよう、地域や家庭、関係機関との連携を強化する必要がある。</li> <li>○ 地域や家庭、関係機関との連携を密にし、学校から地域への情報発信を進める必要がある。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎学力の定着を目指し、丁寧でわかりやすい授業に取り組む。</li> <li>○ 豊かな心の育成を目指し、人権と生命尊重の意識・規範意識の向上、社会的マナーの定着を図っていく。</li> <li>○ 信頼される学校づくりを目指し、家庭や地域、関係機関等との連携をより一層深めるために、情報発信を進めていく。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業公開を積極的に実施することで、継続的な授業改善に取り組む</li> <li>○ 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かい授業を実践するため、必要に応じて各教科でティーム・ティーチングを活用し、生徒の指導にあたる。</li> <li>○ 大学、専門学校、自動車学校など地域機関等を利用した出前授業を活用し、社会で必要とされる幅広い知識を生徒に発信できる体制を整える。</li> <li>○ 教職員自身の人権意識や生命尊重への意識をさらに喚起するため、教職員における校内外での研修機会を拡大・継続して行く。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数学習やTTでの個別指導を実施して丁寧でわかりやすい授業を行う</li> <li>【活動指標】授業評価アンケートの実施</li> <li>【成果指標】各学年において、生徒の理解度・満足度 80%以上</li> <li>○ 遅刻早退を減少させ、各科目の授業出席率の向上を図る</li> <li>【成果指標】各学年において、年間出席率 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1, 2年生の授業でTTを実施し、基礎学力の向上に努めた。</li> <li>○ 生徒の理解度 85%</li> <li>○ 生徒の満足度 80%</li> <li>○ 年間出席率 1年 85% 2年 96% 3年 86% 4年 87%</li> </ul>	
2. 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権学習について充実を図るとともに、生命尊重の意識の向上にも積極的に取り組む。</li> <li>【活動指標】人権LHRの実施、命の教室の実施</li> <li>○ 文化祭などの学校行事や給食を充実させ、望ましい人間関係の構築を支援する。</li> <li>○ 生徒会行事等の内容の充実を図り、多くの生徒が積極的に参加できるように工夫していく。</li> <li>【活動指標】生徒会行事の実施回数</li> <li>【成果指標】行事でのアンケートにより満足度が 60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権LHRについては、全学年において学期ごとに実施(計4回)した。</li> <li>○ 総合的な学習の時間を活用して、命の教室を実施した。</li> <li>○ 全学年が参加する学校行事は15回。うち生徒会行事は5回実施した。</li> <li>○ 生徒の満足度 75%</li> </ul>	◎

#### 改善課題

- 昨年度に引き続き、生徒の授業理解度や満足度は、一定の成果を得ることができたが、学年により理解度や満足度に関きが見られる。引き続き基礎学力の定着及び向上に取り組む必要がある。
- 学校行事については、全員が参加をし、望ましい人間関係が構築できるよう、さらに支援する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 信頼される学校作り	○ 授業公開の実施により定時制教育の周知を進める。 【活動指標】昨年度より公開期間を拡大	○ 本年度は授業公開期間を2回、期間を3日から5日に拡大した。	
	○ 家庭、地域、職場との連携をより一層深めるための情報発信に取り組む。 【活動指標】定時制ホームページの随時更新 【成果指標】学校の様子がわかると回答する保護者の割合 60%	○ 定時制ホームページの定期更新(42回) ○ 様子が分かる保護者の割合 83%	※
	○ 生徒一人ひとりの自己実現を支援するため、教職員が育みたい生徒像を共有しながら連携協力を行う。 【活動指標】生徒面談を学期毎に2回実施  ○ 家庭との連携を綿密に行う 【活動指標】毎月の出欠状況を家庭に報告し、必要に応じて家庭訪問する。	○ 1学期当初の個人面談をスタートに定期考査ごとに面談を行い、生徒の学びを支援した。 ○ 教務部が生徒の出欠状況を管理し、月ごとに集計された出席状況を家庭に報告した。	
	○ 職場定着サポーターなどの外部機関との連携を強め、生徒の就業に対する意欲向上を図る。 ○ 生徒のアルバイトも含め就職支援を強化するため、関係機関との連携体制を構築する。 【活動指標】進路ガイダンスの実施、連携機関との協議の実施	○ 職場定着サポーターとの連携により、生徒の実態に合わせた進路指導を行った。 ○ 全学年に向けた進路ガイダンス 2回実施した。	

改善課題

- 授業公開期間を拡大したことで、保護者や中学校の先生など見学者が増加したが、それを定時制で学ぼうとする生徒数の増加につなげていく必要がある。
- 保護者アンケートについては、アンケートの質問事項や実施する時期、回数などを検討する必要がある。
- 本年度も卒業予定者(4名)の進路を決定することができたが、定時制生徒はさまざまな課題を抱えていることから、生徒の主体性・判断力を育む取組や卒業後を見据えたキャリア教育の構築に取り組む必要がある。

5 学校関係者評価

明らかに 改善課題と次への 取組方向	○ 基礎学力の定着のための教育環境 個別指導の充実が、少人数指導やチーム・ティーチングにより図られている。その結果、生徒の授業の理解度は85%、満足度は80%と、数値目標である80%を上回ることができた。経済的事情や家庭環境に課題のある生徒も多いが、学校での人間関係が学びを助けるような、1学年の人
--------------------------	--

数が少ない場合は、家庭教師的な個人教授とチーム・ティーチングで変化をつけ、人数が多い場合は、仲間学びあう状況を作ることにより、安心して学べ、基礎学力を身につけることができる教育環境が実現できるよう、教員間の授業方法や情報の共有が進むとよいだろう。今後も生徒に寄り添い、きめ細やかな声掛けを全教職員で行い、豊かで温かみのある教育環境を維持してもらいたい。

#### ○ 豊かな心の育成のためのクラスづくりと学校行事の充実

経済的事情や家庭環境が厳しかったり、心身に病を抱えていたりする生徒がいるなかで、給食は、仲間づくりの時間であり、教員とのふれあいの時間でもある。クラスの人数が少ないので、全員が集まる機会は貴重であり、社会(社交)活動として教育効果は大きい。様々な事情で就学が困難な生徒に対して、給食は食育としての重要な役割を果たしているのである。次項にも掲げる伊賀地区における「学びのセーフティ・ネット」としての役割を今後も果たしていくため、給食の制度を堅持してもらいたい。

#### ○ 信頼される学校づくりと「学びのセーフティ・ネット」としての役割

定時制高校として信頼されるには、まず、様々な事情により就学困難な生徒に信頼されること、つまり、「ここならやっつけられる」「居場所がある」と感じさせること、生徒の表情が明るくなる必要があるが、それは時間のかかる仕事となろう。4年間を通じて個人の成長を尊重する学校であることをオープンスクールでの公開授業などで示し、「学びのセーフティ・ネット」として、重要な役割を果たしていってもらいたい。

#### ○ 生徒の進路実現と経済的自立

家庭・地域との連携を密にするとともに、職場定着サポーターの活用も図り、生徒の進路実現を支援した。本年度卒業生4名全員を就職させることができたが、卒業までに自律性を鍛える教育が十分ではなかったという反省があった。職業体験や先輩の話を聞くガイダンスなどで、仕事をするために必要な能力に気づかせ、学習の動機づけをするとともに、教員間での指導法や情報の共有をはかり、最低限必要な能力の定着を実現してほしい。そうすることで、生徒の進路実現と経済的自立を強力に支援し、定時制高校の社会的役割を果たしていってもらいたい。

#### ○ 信頼される学校づくりのための情報発信

家庭との連携は密になってきているが、上記のような充実した教育理念、教育環境について、地域社会、産業社会の認知度は必ずしも高いとは言えない。今、一般的に、学校に関する情報発信はWEBによるものが主流となっている。引き続き、ホームページの閲覧回数や、検索キーワード等を調査し、名張高校定時制への関心の高まりや状況について調査し、それをHPの改善に活かしてほしい。また、卒業生の就職先等を訪問し、名張高校定時制を卒業後、各界で活躍する卒業生の状況をリサーチし、情報発信をするなどの工夫を講じてもらいたい。

## 6 次年度に向けた改善策

### 教育活動についての改善策

○ 生徒の授業の理解度や満足度においては、昨年同様、一定の成果は見られるが、生徒が置かれている経済的環境や家庭環境は一様ではないため、今後も高い数値を維持できるとは限らない。また、不登校等さまざまな原因で義務教育段階の学力が身につけていない生徒も数多くいるため、生徒の実情に応じた教育課程の見直しや少人数指導やチーム・ティーチングを活用した授業の拡大(学年や教科)に取り組む必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本年度も卒業生の進路については、全員決定することができたが、定時制の生徒の現状を考えると、いかに生徒を成長させるか、どのように生徒を鍛えていくか等を中心に据えたキャリア教育、進路指導に転換していく必要がある。</li> <li>○ 授業公開期間を拡大するなど積極的に実施をしたことで、中学校の教員や保護者等の見学も増え、志願者の増加に繋がったことから、このことをふまえ、継続的な授業改善に取り組んでいく。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭・地域との連携を密にし、本校定時制ならではの教育理念、教育環境について認知や理解を高めるため、本校教育の取り組みを積極的に発信していくとともに、教育相談支援員や職場定着サポーターをはじめとする外部人材の継続的な活用や外部機関への支援を要請し、連携しながら生徒の進路実現と経済的自立に取り組んでいく。</li> <li>○ 教職員個人の一過性の取り組みでなく、入学から一貫したキャリア教育など具体的な目標を掲げ、各分掌それぞれの取り組みを整理し、システム化に取り組んでいく。</li> <li>○ 機会をとらえた会議の設定、ファイルサーバーを活用した生徒情報の共有など、職員間の情報共有のあり方を提案してはいるが、十分ではないことから、校内研修等を重ねることで、迅速かつ円滑な情報共有が図られるよう取り組んでいく。</li> </ul>